

将来への展望

外交関係を結んで70年。貿易の拡大、投資やビジネス提携の定着、多様で広範囲な人々の交流、教育や芸術の共有、日加関係は大きな発展を記してきました。戦争という障害も乗り越えてきました。文化的相違という障壁は、相互の理解と尊敬が深まるにつれて消え去りました。日本とカナダは、現在私たちが暮らしている国際環境や地域環境をより良いものにするため、手を携えて働いてきました。

この強固な土台の上に立てば、日加関係は新千年紀に入っても着実に発展を続けるでしょう。その途上に解決すべき課題はあるにしても、未来は明るさに満ちています。

経済関係は、両国がテクノロジーの急速な進歩やグローバル化という新しい現実とうまく対応していくとき、新たな発展を遂げるでしょう。従来型の貿易・投資を土台にし、その上に多くの知識型先端技術分野やサービス分野において、あるいはまた第3国でのジョイントベンチャーを通じて、相補的な協力関係が育っていくでしょう。

建築用材、消費材、加工食品、健康・医療用品、観光、情報技術—こうした最大の成長が望める分野において、日本との協力を深めるカナダの戦略により、今後、相互に利益となる機会は一層増えると思われます。

両国の結びつきをより強固にするため、文化の交流や人々の交流が一層緊密に、また全面的に展開されるでしょう。今日、両国の若者たちは教育や語学学習、起業に参加しており、これらはやがて十分な成果を挙げ、さら

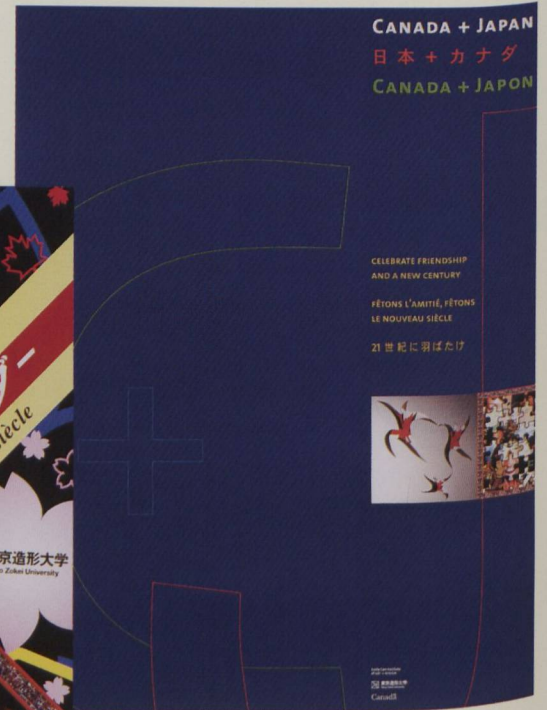
に盛んになっていくと思われます。今後、市場の地域化が進み、姉妹提携その他の国際交流によって地域社会同士がより直接に関係を深めていくとき、個々の地域と交流する重要性が高まっていくでしょう。

芸術や文化の分野では、日本人とカナダ人の共同制作や活動が増えるでしょう。現在準備中のプロジェクト「A New Century Creators Series」は、建築、ダンス、音楽の共同プロジェクトや共同公演の機会を増やすことで、2001年に予定されている「Festival Canada 2001」ではカナダ人アーティストが日本各地で公演するはずで

協力の領域はさらに広がっています。例えば高齢化社会の問題、効果的な医療の課題に対応する研究の共同化や情報の共有など、多くの新しい道が開けつつあります。

国際活動の面を見ると、カナダと日本は、現代の諸問題を解決するために今後も共同活動を続けるでしょう。“平和構築”といった新しいコンセプトの形成、力も特権もない人々が幸せに暮らせる世界の建設・開発の促進、人権尊重意識の拡大、国際機関の健全性と有効性の維持など、問題の山積する世界で協力してリーダーシップをとっていくでしょう。

カナダは、21世紀においても、対日関係を強化発展させる強い意志を抱いています。過去の歴史と実績に立ち、未来への信頼を共にし、日本とカナダは、より良い世界を築くパートナー、友人として、まもなく21世紀を迎えようとしています。



In 1998 the students of Emily Carr Institute of Art and Design and Tokyo's Zokei University teamed up to produce two posters representing the Canada-Japan relationship in the new millennium.

En 1998 les étudiants de l'Institut d'Art et de Design Emily Carr et de l'Université Zokei de Tokyo ont travaillé ensemble pour produire deux affiches représentant la relation entre le Canada et le Japon à l'aube du nouveau millénaire.

1998年、エミリー・カー芸術デザイン・カレッジと東京造形大学は、新千年紀の日加関係を象徴する2つのポスターをインターネットを利用して共同制作した。